温帯性針葉樹林の保存・復元に向けた取組
－森林生物多様性復元地域－
第1回管理委員会

開催日時及び場所	平成26年6月27日（金） 9:00～　木曽森林管理署　会議室
管理委員	青山　節児　（中津川市長） 飯尾　歩　　（中日新聞社　論説委員） 池田　聡寿　（池田木材（株）　代表取締役社長） 植木　達人　（信州大学農学部　教授） 大住　克博　（鳥取大学農学部付属フィールドサイエンスセンター　教授） 大浦　由美　（和歌山大学観光学部　准教授） 岡野　哲郎　（信州大学農学部　教授） 下嶋　聖　　（東京農業大学短期大学部　助教） 杉田　久志　（（独）森林総合研究所　植生管理研究室　室長） 田上　正男　（上松町長） 野村　弘　　（木曽官材市売協同組合　理事長） 早川　正人　（付知町まちづくり協議会　会長） 増田　今雄　（信濃毎日新聞社　編集委員） 山本　進一　（名古屋大学　名誉教授） 山本　博一　（東京大学大学院　教授） 横山　隆一　（（公財）日本自然保護協会　常勤理事） 検討委員16名　　五十音順
議事内容	（1）平成26年度の検討事項について （2）管理基本計画について （3）愛称の募集について （4）その他
概　　要	○　平成26年度の管理委員会では、温帯性針葉樹林の保存・復元に向けた中長期的な目標や取組の方針（管理基本計画）の検討を行うこと、また、取組地域の愛称について募集することについて大筋で了解が得られた。 ○　委員からの主な意見は次のとおり ・調査・試験結果については、整理だけでなくこれまで実施してきた各試験・研究を的確に考察、新たに分析・評価し、実際に活用できる形にする必要があるとよい。 ・社会との関係性づくり、プロジェクトの広がり、生物多様性の確保を考慮し、相乗効果を生み出すためのプログラム全体のマネジメントをすることを管理基本計画に組み込み取り入れるとよい。 ・大規模な人工林の天然林化を実行するための体制、新たなモニタリングの体制等今から始めないと間に合わない。社会全体を巻き込んだ体制づくりを計画の中で明確にするとよい。 ・将来的に大きな目標として、ササ山をどのように天然林にしていくのか。コアaの赤沢を種子の採取場所としたらどうか。 ・生態系の復元や利用を考える新たな取組であり、納税者、地域社会はもとより、技術者、行政担当者などの専門家にも発信していくことが必要。 ・管理基本計画には、このプロジェクトの基本構想、背景、社会的意義と「なぜ」保存復元に取り組むかの根幹の部分の記載と実現のさせ方の記載が必要。 ・愛称の募集について、どういう手段で公募するのか。今回目指しているものの概要も記載し、地域の方からの積極的な応募ができる方法で行われるようにするとよい。 ・近いうちに今回の現地視察以外の現地見学会の機会を企画してほしい。 ・現地で感じたこととして樹林はすばらしいが花が少ない。鳥、植物、他の生物の位置づけが見えないため、その関連付けをしてほしい。 ・本プロジェクトの林業との関わり、位置づけを明確にする必要がある。 ・国有林は地域の振興に貢献してきたが、そのような歴史を十分踏まえて、世界トップクラスの良質の木曽ヒノキの生産が継続されることが地元の願い。